

⑤ 二本松市ふれあいの森公園 (二本松市)



環 境

二本松市ふれあいの森公園は、二本松市西方成田町に平成元年4月にオープンした。

面積は6.2ha。観察歩道を一周しても一時間程度の、クリ、コナラ、アカマツなどを主とする里山の雑木林を利用したコンパクトな公園である。

季 節

早春、ムギマキの群れが餌をついばみながら北に向かって移動する姿を見る頃になると、シジュウカラのさえずりも賑やかになり、巣材運びが頻繁に行われる頃には、上空にイワツバメが飛び交い、キビタキも姿を見せる。やがてオオルリやムシクイ類、クロツグミ、サンコウチョウなどが渡来すれば、夏鳥のオールキャストが勢ぞろいする。この頃、公園の中心部にある只来沼付近では、カルガモやオンドリが雛を連れ、日が沈み始めると、ゴイサギが鳴きながら餌場へと飛んでいき、夜にはフクロウやヨタカがさえずり、一年中でもっとも賑やかな季節を迎える。

暑さもピークになり、観察歩道沿いにギボウシの紫の花を見る頃は、喧騒の林も一時の静けさが戻ってくる。しかしそれも長くは続かず、9月中旬になると只来沼にオカヨシガモの小群が北からの長旅の疲れをいやしていたり、渡り途中に羽を休める小鳥たちの中から思いがけない種類を発見することもある。

しかし、ここふれあいの森公園は真冬にこそパー

ドウォッチングの醍醐味がある。ヒガラ、コガラ、キクイタダキ、ルリビタキなどが高い山から飛来し、用水堀付近にはミソサザイが現れ、突然足元からヤマシギが飛び立ち驚かされたりする。また、北から渡ってきたベニマシコ、ハギマシコ、オオマシコを一度に見られる幸運に恵まれることもある。冬は野鳥の種類、数とも最も多くなる時期である。日本野鳥の会会員の調査では、年間を通じて120種以上の野鳥が観察され、その他ノウサギ、リス、ムササビなどの小動物の生息も確認されている。

交 通

JR二本松駅下車。バスの便はなく、徒歩では約1時間。マイカーまたはタクシー利用約10分。駐車場は約50台収容可能。

